

放射線影響の病理学：放射線発がんから耐性、そして福島

Radiation Pathology: From Thorotrast to Fukushima through Radioresistance

* 演題名が変更となりました。

♣日時：平成 26 年 5 月 14 日（水） 17：30～

May 14th (WED), 2014 from 17:30.

♣場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

♣講師：福本 学 先生（東北大学加齢医学研究所・教授）

Prof. Manabu Fukumoto

(Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University)

放射線の細胞影響として、急性障害としての細胞死と晩発影響としての発がんがある。古典的には、放射線によって起こった DNA 変異が細胞の生存に関わるならば細胞死が、生存に有利ならばがん化が起こる、と考えられる。我々は、トロトラスト被注入患者の病理標本で内部被ばく発がんの分子機構を解析し、がん誘発は複雑な生物応答の結果であることを明らかにした。更に、トロトラスト誘発がんは、がん化後も引き続いて起こった長期微量被ばくに耐性であると考え、放射線耐性細胞の樹立と耐性の分子機構の解明を行っている。東日本大震災の結果、福島第一原発から放射性物質の飛散事故が起こった。我々は、警戒区域内の野生化した家畜などの内部被ばく資料アーカイブの構築と生物影響調査を行っている。

担当：片渕 秀隆 教授（産科婦人科学分野）

Inviter: Prof. Katabuchi (Department of Obstetrics & Gynecology)

レポート宛先: buchi@kumamoto-u.ac.jp

CC（医学教務）: iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

** 名医に学ぶセミナーは日本語にて開催致します。 **

** D2 Learning from Experienced Doctors Seminar will be held in Japanese **